

プロジェクト名	クラージュハウス建設(元子ども兵社会復帰施設住民参加型建設)プロジェクト
実施地域	ウガンダ共和国 グル県
実施期間	9ヵ月間 (2006年7月～2007年3月) 完了
ターゲットグループ	元子ども兵士／現地住民
受益者数	約400人
プロジェクト目標	元子ども兵が社会復帰に必要な能力(手工芸などの職業技術など)を身につけ収入向上活動を始めていく為の施設及び給食調理施設、倉庫、水道が整備され、元兵士と住民がこの建設の補助作業や和解促進の為のワークショップを通して両者の和解が促進される

(1)プロジェクトの概要

手工芸などの職業訓練を主目的とした元子ども兵の社会復帰施設を元子ども兵と現地住民が協力して建設する住民参加型建設プロジェクトです。LRA の元子ども兵と地域住民が建設作業、水汲みなどの補助作業に関わり、元子ども兵と地域住民への和解促進のためのワークショップを期間中8回開催し、両者の和解促進、関係改善に努めました。

また、施設内に水道を整備し、給食を調理する為の部屋と施設内の備品、建設機材などを保管する倉庫も整備し、現在、[元子ども兵社会復帰支援プロジェクト](#)のベースとして活用しています。これまでは、毎朝、施設での給食調理の為に乾季の時など1km近く離れた井戸から水を汲んで運んでくることもあり、また、炎天下の中で給食を調理していることもありました。今回のプロジェクトで、調理場と水道が整備されたことで、より効率よく、安全に給食の配給など元子ども兵が社会復帰するための施設運営を進めていくことができるようになりました。

(2)建設作業の様子



【写真】基礎工事の様子



【写真】基礎工事が終わり、レンガで壁を積み上げていく作業





【写真】 壁のレンガ積み上げ作業が終わり屋根工事が始まった様子



【写真】 屋根工事、外装、内装工事が完了し完成したクラージュハウス



【写真】 クラージュハウスの別棟として建設した給食所と機材・資材管理庫。これまでは野外で50人以上の給食を調理していたので、この給食所により食事準備が効率化され、調理器具や食材が安全かつ衛生的に管理できるようになりました。給食準備は担当職員2名と受益者がグループに分かれ協力し毎日作っています。また、その他の機材や建設資材、訓練資材などもこの倉庫で安全に管理保管することが可能になりました。



【写真】 水道設置の様子。水道は1キロの離れた水源(水道)から地下にパイプを埋め工事を行いました。パイプの埋設工事に時間がかかりましたが、これまで水道がなく1キロの道のりをポリタンクで水を運んでいたのが、水が出た時は、スタッフ、受益者共に本当に大喜びでした。

(3) クラージュハウスの様子



【写真】 染色などを手工芸クラスで学んだ生徒たちが作った商品



【写真】 クラージュハウスの建設をご支援いただいた日本の支援者様への歓迎ダンスの様子



【写真】施設内に水道が設置され、喜ぶ受益者（チャイルドマザー）たち



【写真】受益者たちが衛生的な環境で訓練を受けることが出来るようになっただけでなく、幼児を抱えるチャイルドマザーたちにとってプライマリーヘルスケアの授業で学んだことを実践する場にもなっています。



同プロジェクトにおいては(株)リアルスタイル様の情報企業家セミナー参加者の皆様からのご寄付でプロジェクト費をご支援いただきました。多大なご支援に心より御礼申し上げます。また、上の写真は、開所式に合わせて日本から(株)リアルスタイル代表の鍵谷様ご本人が当地へお越しいただき、開催したセレモニーの様子です。クラージュハウスにはセミナーに参加しプロジェクト経費をご寄付頂いた全員のお名前が入ったプレートがこの日に合わせて設置されました。

[クラージュハウスでの活動状況はこちら「元子ども兵社会復帰支援プロジェクト」](#)

(3)紛争(再発)予防への配慮について

ウガンダ北部のグル県では住民の87%が国内避難民となり(2005年当時)、同地へは多くの援助機関から大量の資金が注入されていますが、援助プロジェクトの(調達業務などの)過程で建設を請け負う大手の建設業者や運送業者、流通業者、資材調達先となる卸売業者、援助関係者など一部の裕福層やその周囲(親族や友人など)のみに資金が偏って流れ、地元での貧富の格差を拡大する恐れがあります。また汚職の問題なども絡み、このような紛争地域で貧富の格差が拡大していくことは、貧困削減を難しくするだけでなく、紛争後の新たな争いの火種や社会不安の要因にもなります。当会では、紛争予防の視点からプロジェクトの実施過程においても(貧富の格差の拡大や住民間の対立など)地域社会へのマイナス影響を最小限に抑えるよう配慮し、今次建設プロジェクトにおいては、大手建設業者ではなく、個人のエンジニアと契約し資材調達から施工管理までを同エンジニアと協力し当会現地スタッフが共に行い、元子ども兵と地元の貧困層の人々を優先して雇用することで両者の和解促進、関係改善にもつながるよう努めました。